

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2391500176		
法人名	介護サービスさくら		
事業所名	グループホーム悠々 北ユニット		
所在地	愛知県名古屋市長区高針荒田1011番地		
自己評価作成日	平成28年10月31日	評価結果市町村受理日	平成29年2月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=2391500176-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigvosyoCd=2391500176-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市長区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成28年11月18日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

入居して頂いたら最期まで責任を持ってお世話させて頂く。と言う理事長の考えに従い、看取りを行っています。提携病院との連携を密にし、看護師は非常勤ではあるが、2名体制で医療面の充実を図っています。インシュリン・経管栄養・車いす方等は、幅広く受け入れが可能です。行事やレクリエーションにも力を入れており、職員は様々な企画を常に考え、努力しています。建物が複合施設になっているため、1階～3階の合同での行事は近所の保育園児を迎え、一緒に楽しみ、利用者様、職員共々癒されています。また、認知症に効果があると言われている音楽療法・リトミック等歌う機会を取り入れています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

ホームは、開設以来、地域の方との交流に前向きな取り組みが行われており、地域の祭事の際には、ホーム建物内の交流スペースを提供する取り組みが行われている。ホームからの働きかけを通じて、近隣住民が増えていることと合わせて、地域の方との関係が深まっている。ホームには、小規模多機能と有料老人ホームと併設して開設されていることで、事業所全体で利用者の様々なニーズに対応しており、ホームもその役割を果たしており、併設事業所からの利用者の移行等の対応が行われている。また、職員間の連携についても、事業所全体での研修会の実施をはじめ、緊急対応の際には、各事業所の職員間で協力した対応が行われている。ホーム建物が法人本部であるため、利用者、家族からの要望等にも随時対応しており、安心して過ごすことができるホームでもある。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所の理念である「助け合う、学び合う、育ち合う」のモットーを基に管理者と職員は同じ意識を持ち、利用者様に寄り添う介護を心掛けている。	法人の基本理念をホームの支援の基本に考えながら、職員間で日常的に理念を共有しながら連携に取り組んでいる。また、ユニット毎に毎年度の目標を考えており、理念の実践につなげる取り組みが行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	周辺の散歩に出掛け、近所の方と会話したりしている。月に1回地域の方とフラダンスを楽しんだり、全館での行事では近所の保育園と交流している。	地域の方との交流については、ホーム建物が法人本部でもあるため、事業所全体で取り組んでいる。地域の祭事にホームも協力したり、建物1階にある交流スペースを地域の方に活用してもらう取り組みが継続されている。	今後の福祉施策にも合わせながら、ホームでも協力可能な内容を検討している。法人全体での取り組みでもあるため、今後のホームの取り組みにも期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	事業所が認知症のノウハウを持ち、入居者のご家族や検討されている地域の方々の認知症等についての相談に耳を傾け、アドバイスなどしたりして地域の方々から頼られる存在になるべく、情報の提供を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	出来る限り、ご家族に順番に参加して頂き、地域の方、地域包括の方の情報やご意見を頂いたり、入居者やサービスの状況の報告や話し合いを行っている。	会議の際には、代表者に福祉施策や今後の計画等に関する説明が行われていることもあり、出席者にホームを取り巻く状況を理解してもらう取り組みにつながっている。その上で、併設事業所と合わせて現状を報告しており、意見交換等につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	日々、サービスを提供するにあたって、介護保険法やその他の疑問に思う事は、積極的に市に電話連絡を行い、相談して解決するように努めている。	市の関係機関とは法人全体で取り組んでおり、代表者をはじめ行政機関の福祉施策への協力が行われている。また、研修会への講師等を通じた取り組みや事業所の連絡会を通じた情報交換等が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	玄関施錠に関しては入居前に説明し、それを了承して頂い上で入所を決定してもらっている。安全の為、ベッド柵は半分使用している利用者様もみえるが、身体拘束は行われていない。	ホームは身体拘束を行わない方針のもと、フロア内の移動が自由であり、職員間での見守りの対応が行われている。また、事業所全体での研修会の取り組みが行われており、職員の振り返りの機会につなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学び、また、管理者と職員一人ずつで不定期ではあるが、個人面談を行い把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	毎月のミーティングの中で、月例報告を行っており、その一つに権利擁護の議題も設定されており、職員の内部研修としている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約書や重要事項説明書についてはお互いに書面を見ながら音読にて内容を説明する。疑問があればお答えするようにしており、十分納得されたうえで契約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族やご本人より直接要望があった場合、話し合いの場を設け、改善出来るよう努めている。また計画作成担当者が常にご家族に意見、要望を伺っている。	ホームで開催される行事の際には家族にも案内を行い、交流の機会をつくっている。建物内に法人本部があるため、随時の家族からの要望等の把握が行われている。また、ホーム便りとして、毎月の行事カレンダーと担当職員が作成する便りを発行している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	代表者や管理者は運営方針についての説明など積極的に職員とコミュニケーションをとり、意見、提案を広く吸い上げている。それをミーティングなどで話し合う機会を多く設けている。	毎月の職員会議が行われており、管理者が把握した職員からの意見等は、法人の責任者に報告され、運営への反映につなげている。また、ホーム建物1階に法人全体があるため、職員は随時の相談等が可能な体制でもある。	法人全体で職員体制を変更していることもあり、職員にとってより良い体制につながるように、今後のホームを含めた法人全体の取り組みに期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員に対して無理のない勤務体制を整えたり、常勤、非常勤共に個人面談等で職員個々の努力や実績を把握し、向上心が持てるようなより良い職場環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員全員がスキルアップに心掛けている。そのため、全職員に内外の研修に参加してもらえるよう情報は積極的に公開している。研修内容を職場に報告する機会を与えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	他事業所の管理者や介護支援専門員などとの交流は理事長を介して行っており、事業所間の情報交換などは行っている。月1回のエリアマネ、ケアマネ会議、ケアマネの勉強会も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	本人の不安な思いに耳を傾け、おかれている状況を把握し要望等を聞きながら、安心して頂けるよう声掛けすることを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	検討している段階や見学に来て頂いた時に、不安や疑問に思ったことにしっかりお聞きし、ご家族に安心して頂けるようなサービスを行っていき、信頼関係を築いていけるように努めていく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	サービスを導入する段階では、管理者・計画作成者・看護師を中心に、まず何が必要か、どのような支援が可能か検討しご家族と相談して対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員は共同生活者の一員として日常生活の中に入り、尊敬と感謝をもって、一緒に過ごせるよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	月に1度近況報告のお手紙を出している。と共に、お電話での報告、また来館された時には職員からの報告や掲示してある写真を話題に関係を深め、信頼関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご本人が大切にしてきた人間関係を把握し、実際に馴染みの場所にお連れするのは難しいが、会話などから思い出して頂けるように努めている。ご家族・親戚・友人等自由に出入りして頂いている。	利用者の中には、入居前からの関係方との交流を継続している方がおり、併設事業所を利用している方との交流をはじめ、ホームでも可能な支援が行われている。また、家族とも定期的に食事や買い物を通じた交流を継続している方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	日中はほとんどフロアーで皆さん過ごされている。ご利用者同士の談笑に職員も参加したりしている。行事・外出を通してご利用者同士支えあえるように支援に努めます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退所された方や亡くなられた方のご家族等に、その後お手紙頂いたり、電話連絡したりなど、可能な範囲でフォローは行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	会話を通して、無理強いせず、ご本人の意思に沿えるようにしている。重度の認知症の方には、ご家族からのお話しや日頃の表情などから把握できるように努めている。	職員間で担当制も活用しながら、利用者の把握が行われており、毎月の便りの作成等、利用者に関する気付きを報告する取り組みが行われている。また、毎月のユニット会議を通じたカンファレンスを実施しており、職員間の情報の共有につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご本人やご家族に入居前のお話を伺い、ライフスタイル、生活環境を把握しこれまでの馴染みの暮らしに近づけるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ご利用者の言動等しっかり受けとめ、日常生活で申し送り・介護記録・生活記録にて現状を把握し、心身の変化等を早期に発見するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご本人やご家族にお話しを伺う事はもちろん、担当職員も介入し計画作成担当者が介護計画を作成している。	介護計画の見直しは1年であるが、モニタリングを毎月実施するようになったことで、状態等の変化を把握し、随時の見直しにつながるような取り組みが行われている。また、職員間での情報を共有しながら日常の支援につなげている。	モニタリングを毎月実施しているため、職員間で介護計画の内容に合わせた記録を残し、変化に合わせた介護計画の見直しにつながることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の気づきは介護記録に記載し、また職員が一目見て分かるように特記事項青字、夜間帯は赤字のように色分けし記録をし、情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	月間スケジュールを作成し、その月にどのような催し物があるのかご利用者だけでなく、ご家族もわかるようにしている。ご利用者のニーズに合わせて柔軟に支援やサービスを提供できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	多目的室を利用して地域の方が参加して頂けるような行事が充実しつつあり、近くの保育園児との交流は恒例行事となっており、日頃無表情の利用者様もにこやかな表情をされる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	当施設では、提携病院があり、月2回往診の医師がみえる。入居前のかかりつけ医師が良い方は、他の病院に受診している。何かあった時には、提携病院の医療が受けられる。	併設の有料老人ホームと合わせて協力医との関係がつけられており、利用者の身体状態等の変化に合わせた対応が行われている。また、ホームに看護職員が勤務しており、利用者の健康面に関する協力医への情報提供等、医療面での支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	2人の非常勤の看護師と職員と情報のやりとりをしている。主治医・ご家族との連絡は看護師が主に密におこない、施設内での適切な受診や看護が受けられている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には必ず情報交換を行い、ケアマネも病院に足を運び、状況を把握したり、病院のケースワーカーとも密に連絡を取り、出来るだけ早期に退院して頂ける様に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	実際に終末期の介護は行っており、主治医よりその時の指示を頂いた際には、主治医・ご家族・職員の話し合いを持ち、施設としての終末期の指針を書類で説明し、ご家族のケアも行うようにしている。	法人全体で利用者の看取り支援に取り組んでおり、ホームでも利用者の看取り支援が行われている。医療面での連携に取り組みながら、状態変化に合わせた家族との話し合いが行われている。また、看護職員より職員への日常的なサポートが行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変や事故発生時のマニュアルを作成し、すべての時間帯での対応の仕方等を見える場所に貼り付けてある。救急救命士による応急手当やAEDの使用法の講習を職員が受けて、看護師の指導により実践力を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回避難訓練を行うようにしている。避難訓練を実施するため、委員会を作り職員と共に災害に対する勉強会や話し合いをしている。地域との協力体制も少しずつ築いている。	避難訓練は併設事業所との合同で実施しており、通報訓練をはじめ、消防署の協力を得た訓練も実施されている。訓練には地域の方にも協力をお願いしており、関係づくりにも取り組んでいる。また、建物屋上の倉庫に備蓄品の確保が行われている。	夜間を想定した訓練を次回予定している。併設事業所と合わせて複数の夜勤職員が勤務している利点を活かしながら、職員間で連携を深める取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	年長者として、敬意を払い、基本的にさん付けでお呼びし愛称でお呼びしている方はそのようにお呼びしている。馴れ合いの中でも敬語を使い、ご本人の尊厳を保つべく声掛けをするように心掛けている。	職員による利用者への言葉遣い等については、管理者より、その方を尊重した対応を行うように伝えられ、気になる際には注意喚起等が行われている。また、職員研修の機会もつくられており、職員間の振り返りにつなげている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	可能な範囲で「自己選択・自己決定」が行われるように促している。個々の思いは閉じ込めないように、我慢せずにいて頂くように心懸けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	なるべくその方のペースに合わせて行動するように努めている。入浴拒否やトイレ拒否の方には、職員が話し合いを持ち、様々な声掛けや促しを工夫している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご家族にそれまで身に着けていた洋服や装飾品を用意して頂く。そこから季節に合わせた洋服等をご本人と会話しながら、その時の表情を見て主に職員が選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	以前までお願いしていた配膳作業は難しくなってきたが、可能な方にはお茶碗洗いをお願いしている。月1回の食事作りやおやつ作りではご利用者に積極的に参加して頂いている。	日常的な食事については、ホーム建物1階の厨房から提供されているが、毎月ホームでの食事作りやおやつ作りの機会もつくられており、利用者もできることに参加している。また、利用者の身体状態に合わせた食事形態の提供も行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養バランスは管理栄養士のレシピをもとに調理を行っている。またご利用者の状態によって、刻みにしたり、ミキサーにかけたりしている。水分量や食事量は看護師がしっかりチェックし、指示・記録をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後口腔ケアを行い、お一人で困難な方には、必ず職員が仕上げ等の介助に入っている。週1回訪問歯科医をお願いし、個々に合わせた口腔ケアの指示を受け、清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行うようにしている。失敗が失敗が多くなった時は、その方に合った対応を職員で話し合い、トイレでの排泄に努めている。	職員間で利用者全員の排泄記録を残しており、チェック表や日常の申し送り等を通じて職員間の情報の共有につなげている。また、トイレの壁紙に排泄を促す効果のある色彩を取り入れる独自の工夫も行い、トイレでの排泄を目指している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便チェック表で毎日確認し、便秘の方には朝一番に少し冷たい飲み物を提供したり、腹部マッサージを行っている。また便秘のひどい方には医師との連携で薬の処方等で対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	入浴時間はおおそ決まっているが、その日の体調に合わせて入って頂くようにしている。入浴拒否がある方は、時間をかけて個別に対応している。また拒否が強く続く方は清拭や足浴等で対応している。	入浴は週2回の午前の時間に実施しており、職員間で声かけを行いながら、利用者が定期的に入浴できるように取り組んでいる。また、ホーム建物1階には、機械浴が設置されていることで、浴槽での入浴が困難になった際でも入浴できるように取り組んでいる。	利用者の入浴に関する楽しみが増えるように、入浴の回数や時間への取り組みをはじめ、季節に合わせた入浴等、今後のホームの取り組みにも期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	ご本人の生活リズムを把握し、日中はフロアで過ごして頂くようにしている。休息したい方は長時間にならない様に声掛けしている。就寝は無理強いはないが、22時頃には就寝して頂いている。殆どの方は良眠されている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	看護師が薬の服薬管理をしており、服薬に関して職員に細かく指示があるため、服薬の支援と症状の変化の確認は出来ている。また服薬時には、職員がが利用者が薬を服用したことを確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	張り合いのある生活を送って頂ける様に、陶芸や習字教室を提供したり、歌を歌ったりして笑顔を引き出せるように工夫している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している。	近所の公園には、個別で散歩にお連れしている。季節を感じて頂くように花見や紅葉狩りなど行事に取り入れ、出かけるようにしている。その時はご家族にも参加して頂くよう声掛けをしている。	ホーム近隣にある公園を散歩したり、買い物を通じた外出の機会もつくり出されている。季節に合わせた花見や紅葉等の外出行事も行われている。また、利用者の希望に合わせた少人数での喫茶や買い物等の外出支援も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご利用者がお金を管理する事は困難で、外出先の支払いも難しいのが現状である。そのため少額だけ持参して頂き、可能な方は外出先で支払いをして頂くように努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族に電話したい等の要望があれば、職員がご家族に電話して、本人に取り次ぐ支援を行っている。郵便物などが届いた場合は、ご家族の了承を得て本人へ渡している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	専門家の意見を取り入れ整備されている。清潔を基本として、入居様の不安を招くような物は置かないように努めている。また、ご利用者と季節ものの制作し、壁に貼っている。	各ユニットが、平面でゆったりとしており、壁紙をはじめとする色彩と合わせて、利用者が落ち着いて過ごすことができる環境である。また、リビングの壁には、ホームでの様子が写真で掲示され、季節に合わせた飾り付けも行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用空間で独りになれるところはほとんどないが、ご利用者同士の関係性を配慮してソファやテーブル席で和やかに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご自分の部屋であることを意識してもらえるように、使い慣れたもの、好きなものは持参して頂く等、安心して過ごせる空間になるように工夫している。	居室には、利用者や家族に合わせて、その方が使い慣れた家具類の持ち込みが行われている一方で、シンプルな雰囲気の方もあり、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。また、利用者により、家族との写真や好みの物を飾っている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	お一人おひとりの日頃の状況を把握して、日常の生活の中で出来ることが継続していくような生活環境を作っている。		